

会議録（案）

会議の名称	西東京市学校施設適正規模・適正配置検討懇談会第1回会議
開催日時	令和元年7月17日（水） 午前9時30分から
開催場所	保谷庁舎3階 第2会議室
出席者	<p><委員> 田口康之、齋藤美智子、辻 未来子、萩原美雪、友田弓子、住田佳子、岡田 勇、尾形節子、土屋孝子、町田元彦、保谷 力、井上雅子、勝見俊也（順不同、敬称略）</p> <p><事務局> 木村俊二（教育長）、飯島伸一（教育部特命担当部長）、森谷 修（教育部参与兼教育企画課長）、和田克弘（教育部主幹）、根岸伸太郎（教育企画課学務係長）、児島彩香（教育企画課学務係主事）</p>
傍聴者	3人
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 教育長あいさつ 3 委員の任命及び依頼 4 座長の指名（副座長の指名） 5 自己紹介 6 会議の運営について 7 現状説明及び今後の進め方について 8 その他 9 閉会
会議資料の名称	<p>資料1 西東京市学校施設適正規模・適正配置検討懇談会設置要綱</p> <p>資料2 西東京市学校施設適正規模・適正配置検討懇談会傍聴要領</p> <p>資料3 西東京市学校施設適正規模・適正配置検討懇談会委員名簿</p> <p>資料4 西東京市立小・中学校学区一覧</p> <p>資料5 西東京市立小・中学校の規模</p> <p>資料6 西東京市人口ビジョン（抄）</p> <p>資料7 西東京市立小・中学校の一覧</p> <p>資料8 学校施設適正規模・適正配置や通学区域に関するこれまでの検討等</p> <p>資料9 西東京市学校施設適正規模・適正配置に関する基本方針（平成20年11月）</p> <p>資料10 今後の検討に必要な情報と進め方について（A3）</p> <p>資料11 開催スケジュール</p> <p>附属資料 学校選択制度のご案内（平成31年度入学用） 西東京市公共施設等総合管理計画（抜粋）</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p><○発言者：発言内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 教育長挨拶 3 委員の任命及び依頼 	

4 座長の指名（副座長の指名）

要綱第5に基づき田口康之委員（学識経験者）が座長として互選され、要綱第5第2項に基づき、田口座長が勝見俊也委員（柳沢中学校長）を副座長に指名した。

5 自己紹介

各委員及び事務局の自己紹介。

6 会議の運営について

会議録は、委員の名前を伏せた上で、発言者の発言内容ごとの要点記録とし、傍聴の取り扱いは資料2のとおりとする。

7 現状説明及び今後の進め方について

○座長：今日はこのことについて、ご意見を伺い、次回に事務局でそれに関する内容と回答やデータが示されると思う。

○座長：資料8の平成20年度前後に関わってくるところで、本懇談会があって数年後に統合協議会や具体的な委員会ができるという流れで良いか。

○事務局：児童生徒数の動向を踏まえて、適宜将来推計を行っている中で課題等を整理しながら必要とされる場合には、検討の場を設置する。統廃合などは決まっていない。

○座長：先程、児童生徒のためと話したが、地域の方からすると、学校を地域コミュニティの場としていかに活用するかということがある。区部には特養や地域の会議室などが併設されている学校があり、そのような考え方も重要かと思う。皆さんのご意見を伺いたい。

○委員：適正規模・適正配置は市をあげた大きな問題であるが、単に人数だけで行くと失敗するのではないか。配慮を要する児童や特別な支援を要する子どもが集まっている学校もあり、その辺も考えて決めていかなければならないと思う。また、隣に中学校あり、小中一貫にしたらどうかという話もあった。そういうことも可能性として含まれるのではないかと思う。

○座長：義務教育学校を作るという国の流れがあり、その成果と課題の論議は続いている。都全体では、中学校で、各学年が単学級で部活は1つという学校、あるいは30学級を超えている学校もある。様々な状況の中で課題を抱えながら取り組んでいる。西東京市としてのビジョンを持って考えなければならないが、教員側の考え方、地域の方を念頭に置き話し合っていく。

○委員：この懇談会で一番大事なのは理念や基本的な考え方だと感じている。本校では内部努力で生徒数を多くするために取組をしている。大規模校には大規模校の良さがあり、小規模校だからこそ学習面や生活面も含めて見ることができる良さを感じている。理想は3学年ともに3学級が教員数としてもバランスが整うため、そこに向けて努力している。この懇談会でどこに視点を当て、何を基準に適正規模とするのか、皆さんと考えてよりよいかたちにできればと思う。

○委員：ひばりが丘中の移転に伴い、学校選択の話が出た中で、部活が学校選びの基準になると感じた。部活をしたいということで学区を超えて他の中学校を選択する場合がある。

座長：学校をコミュニティにすればいろいろな人が外部指導員として入り、新しい考え方もできる。

○委員：子どもの居場所の充実として、各学校の施設開放運営協議会を作り事業を行っている。公民館に近い小中学校は公民館に依存しがちで、公民館でも同じような事業を行っており、市内で状況は異なっている。各校の取組に差があっても良いと思う。

○委員：昨年も地域協議会に参加し、生徒数が多い学校は多い学校の特色がある。いろいろな部活があり、切磋琢磨できる。小さい学校は部活では目立たないが、小規模校だからできることがあると感じた。人数が多く切磋琢磨できて一人当たりの空間が小さくなってしまふのは保護者としてどうかと思う。それぞれの学校の校舎の規模に合わせた人数というのがどれくらいかを知りたい。その中で、特別な事情がある子どもが多い学校は人数を少なくするなど調整するのもし

つの案ではないか。

○座長：学校規模に合わせた人数、規模を敷地で考える、面積で考えるなどあるがどういう視点か。

○委員：教室の数かと思う。決まりがあるのではないかと思う。

事務局：他の学区も含めて検討したいと思う。

○委員：現在の学校は、前任校の児童数の倍の人数である。元々校庭だった場所に新校舎を増築したこともあり、校庭が狭いと感じている。

○座長：中学校はどうか。

○委員：個人的には 400 人前後の規模が良いと感じている。敷地面積もあるが、教室数という観点から学級数が増えると数学と英語の少人数展開の指導の影響がある。普段は 40 人近い人数で切磋琢磨し、少人数展開で学力向上を目指す、良いバランスでできていると思う。

○委員：教室数はキーワードになると思う。少人数指導の視点も含め教室数が収まるかで適正の考えがあると思う。500 人を超えると部活や生活指導そして不登校の問題がどこの学校も出てくると思う。規模が小さいとそれだけ子どもと教員が向き合える。そこの視点も大事だと思う。

○座長：適正規模・適正配置を考えると、小規模校と大規模校それぞれの良さについて、学力や体力、部活動の存続、コミュニティの問題も入ってくる。

○委員：大規模校は、教員の目が届きにくく、スペースの課題やトラブルがある一方、部活が盛んで、選べる。ただ、部活のメンバーが多いとレギュラーになれないが、小さい学校だとなれたりするので、それぞれに良さがある。床面積や人数の一覧表で単純に見比べて子どもがどのくらいのスペースを使えるかというのはイメージできると思う。

○座長：学校規模と人数というところが今後の話題になるかと思う。

○委員：次回以降で児童生徒数推計や課題を整理し、今日は総論の部分の話かと思う。具体的な数字を見ながら話し合っていくことが必要だと思う。泉小が閉校したので、閉校による教職員、子どもたちに関する具体的な事例が本市にはある。子どもが実際に通う安全な学区域というものがあると思う。どんなに近くても大通りを渡らなくてはならない、踏切を越えなくてはならないという点のコメントもできる。適切なパーソナルスペースというところも、教室数がこれだけ足りないということを現場でアピールするチャンスではないかと思う。

○座長：事務局に検討していただき、良い資料ができればありがたい。

○委員：人数を見ると 300 人から 900 人の開きがあり、地域によっては、距離的には近い学校が隣の学区域であったり、いろいろな条件があると思う。障害のある方や配慮を要する児童もいるが、それも含めて、いろいろな条件を出して、その中で判断していくということも必要かと思う。

○委員：聞いた話だが、1 人の違いで、クラス数が変わるということに驚いた。教室自体はあり、分けることができる状況である。少人数だからといって数字だけでみると実情とちょっと噛み合っていない状況があるのかと思う。

○座長：データを揃えてほしいということと、学校規模と人数では、多い少ないの是非ではなく、しっかりした学校教育ができているかということがある。どのような事例で話をするか検討していきたい。次回は適正規模・適正配置について、見えてきた部分もあるかと思うので、それぞれの立場から話していただければと思う。

8 その他

事務局：今後の予定、委員向けアンケート等について説明。

9 閉会